

広島中央圏域 EMIS訓練に参加しました

2病棟看護師 笠原 春樹

当院は、中央医療圏において災害拠点病院として平成24年より認定されています。災害拠点病院とは風水害、大地震や大津波などの大規模かつ広域的な災害発生時に備えるべく各地域の初期救急医療体制の拠点として選定された医療機関です。災害拠点病院の役割の中で被災した状況を想定した研修及び訓練を地域の医療機関や関係団体とともに実施し、地域医療機関の支援を行い体制を整える役割があります。

今回、広島中央圏域内の医療職員、医師会職員、保健所職員、市長議員など30名の方々にEMIS実習が行われ、当院DMATがファシリテーターとして参加依頼があり参加させていただきました。

EMISとは広域災害救急医療情報システム(Emergency Medical Information System)の事で災害時における「適切な情報収集・提供」を目的としたシステムです。災害が発生すると混乱した状況で体制を整える必要があります。その中でも情報の収集は重要とされています。EMISは災害時の医療機関の患者受け入れ可否の照会、病院の被災状況や設備の状況、稼働可能な職員の確認などの情報を共有することが可能で、医療機関に患者対応ができない事態を回避するために機能します。

今回の実習では自施設の情報を確認しながら入力いただき、東広島で震度6強の地震が発生したことを想定し医療機関の被災状況の入力をアセスメントしながら入力し、その情報を一覧として表示を行い参加スタッフと確認し施設の被災状況、ライフライン、医療機関の機能状況、被災後の患者状況の情報を共有していただくことができました。訓練初めはEMIS機能を初めて知ったという方が多くログインすることも難しいスタッフもいましたが、アドバイスを行っていくうちに「うちの施設で練習していきたい。」「こういうときは、どこを開くの。」など活発な意見がみられるようになりました。

今回、中央医療圏のスタッフと訓練に参加して、改めて災害時の情報収集、情報共有の大切さを学ぶこ



とことができました。DMATとして引き続き地域の医療機関への支援が少しずつ継続して行い災害時の体制が迅速に整えるよう活動を行っていきたいと思います。

このたび、貴重な訓練に参加の機会をいただきありがとうございました。

